



安城ロータリークラブ 週報 ROTARY CLUB OF ANJO

●NO. 533 2012/2 第2例会●



2011-2012 RI テーマ

テーマ 『 Let' s Enjoy Rotary 』

- 創立日：S33年1月10日 ●RI加盟認証日：S33年2月6日
- 会長：杓名俊裕 ●会長エレクト：大見 宏 ●副会長：石川 博 ●幹 事：永谷文人
- クラブ会報：神谷 研 寺田孝司 恒川憲一
- 例会日：毎週金曜日 12:30～13:30 ●例会場：碧海信用金庫本店3F／安城市御幸本町15-1
- TEL：0566 - 75 - 8866 ●FAX：0566 -74- 5678
- Email：anjo-rc19580206@katch.ne.jp ●HP：<http://www.anjo-rc.org>

第2674回例会

2012年2月10日(金)12時30分から13時30分

司会者：小野田真代君

ソング：「手に手つないで」

斉 唱：四つのテスト

卓上花：アルストロメリア

ゲスト：市川護君 (安城)

岡山直樹様 (安城学園高等学校インターアクトクラブ
顧問)

ピジター：なし

出席報告

出席委員会 兼松信吾君

会員56名 出席義務者45名 出席37名 欠席8名

内出席免除者の出席10名 出席率85.45%

修正出席率1月27日第2672回例会96.36%

インターアクト活動資金助成金贈呈

安城学園高等学校インターアクトクラブ顧問 岡山直樹様
生徒たちのボランティア活動資金に大切にに使わせていただきます。



会長挨拶 会長 杓名俊裕君

(連絡事項)

1. 2/19(日)にインターシティミーティングを開催します。(当クラブホスト)

場所：ホテルグランドティアラ安城

メインテーマ：「友達をつくろう」

タイムスケジュール：

- ・ 集合 10:00
- ・ 受付 13:30
- ・ 式典 14:00
- ・ 講演 14:45 講師：盛田和昭氏 (パストガバナー)

「ポール・ハリスは友達が欲しかった」

- ・ 懇親会 17:10～19:00

2. 2/11(土)～12(日)

写真同好会撮影会ツアー

- ・ 集合 10:00
- ・ 場所 勝美内科
- ・ 参加者 勝美乙平先生 他7名
- ・ 宿泊 オーベルジュ・コスモス泊



3. 功労会員は下記の方々です。理事会承認しました。3月くらいに一度ご招待したいと思います。

氏名 (年齢) <在籍年数>

1. 神谷茂君 (101歳) <44年>
2. 古居信平君 (89歳) <50年>
3. 神谷信雄君 (88歳) <50年>
4. 大参克己君 (82歳) <41年>
5. 田渕芝男君 (82歳) <30年>
6. 太田昭夫君 (81歳) <40年>
7. 野村聰君 (79歳) <36年>

4. 第20回 RYLAセミナーが開催されます。

主催：三河安城ロータリークラブ 石原健一君実行委員長

日時：2/25(土)～26(日) 11:00 (受付開始)

テーマ：「幸運は天から降ってこない」

お知らせ

インターシティミーティング

2月19日(日) 14:00 ホテルグランドティアラ安城

RYLAセミナー

2/25(土)～26(日) 11:00 愛知県青年の家


 安城ロータリークラブ 週報
ROTARY CLUB OF ANJO

場所： 愛知県青年の家
安城RCから2人参加します。

(あいさつ)

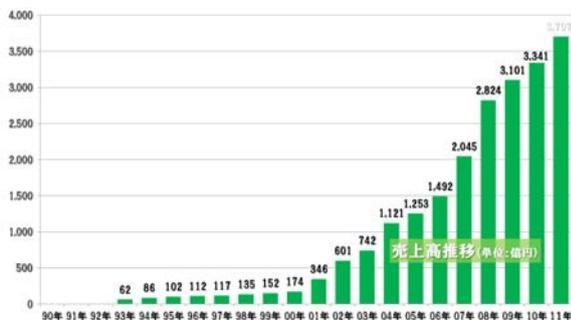
本日の元気印企業の紹介は、「食」で世界を変えるを社是とする㈱ゼンショーホールディングスです。代表取締役社長は小川賢太郎氏(おがわけんたろう)(63歳)です。

小川氏は、全共闘運動にかかわり、東大を3年で中退した経歴を持っています。1978年吉野家に入社し、1980年吉野家が会社更生法適用を奇に退職し、元手資金500万円で6坪(家賃6万円)の弁当屋を開業しました。

1982年ゼンショーを設立しました。ゼンショーという名前には、3つの意味を込めています。それは、「善意の商売」、「禅の心で商売」、「全勝」です。同年「すき家」1号店を開店し、2012年1月現在1,761店舗を展開しています。

1997年ジャスダックへ上場(2001年東証一部)し、2008年吉野家チェーンを抜き、牛丼チェーン店舗数1位となりました。(現在ではマクドナルドも抜いて名実共に外食産業の「1位」です。M&Aも積極的に展開し、「なか卯」「ココス」「醤油のサンピシ」などを買収し、売上高3,707億円、経常利益157億円、資本金100億円、時価総額1,250億円(東証一部)(2011年3月期)の会社に成長しています。

「食」の仕組みを創造し、変革にチャレンジし、「食」のグループ25社(4,000店舗)を擁しています。現在は「食」に関するすべてを流通から全品一環体制で製造しています。



本日のまとめとして、小川氏の言葉を借りてロータリークラブに例えると、「大事なことは、悔いのない人生を送ることだ」としたいと思います。

幹事報告 幹事 永谷文人君

- ①本日例会終了後会議室にてIMの打合せを行います。
- ②安城学園岡山先生へIAC活動資金贈呈致します。
- ③3月16日(金)18:00~仔馬にてファイヤーサイドミーティングを行います。
- ④チョコレートは女性会員3名と事務局員2人からのプレゼントです。



委員会報告

IMについて最終説明

IM実行委員長 石原昭君



日時：2月19日(日)14:00~19:00

場所：ホテルグランドティアラ安城

説明：資料に基づいて会員の役割について詳細に説明しました。

ニコボックス報告 戸谷央君

本日のニコボックスメッセージの紹介。



卓話

- ・クラブフォーラム
- ・テーマ：安城RCカンボジアへ国際交流報告
- ・卓話者：市川護君(国際奉仕委員会委員長)

安城ロータリークラブでは、国際奉仕事業として、2012年1月16日から19日まで、カンボジアのシェムリアップ市を訪問し、井戸を掘り、訪問地域にきれいな水を提供してきました。井戸は21m掘りました。贈呈式の後、一緒に集落の住民から、まだ5本井戸が欲しいと懇願されてしまいました。本日、次回以降の井戸掘り資金のため、募金箱を廻しますから、お気持ちをご援助



安城ロータリークラブ 週報
ROTARY CLUB OF ANJO



ください。(寄附金45,000円が集まりました。これで1本井戸が掘れます。ありがとうございました。)

訪問会員

沓名俊裕君、市川護君、永谷文人君、丸山光夫君、石川義典君、富岡里美君、奥田法行君、成田孝則君、恒川憲一君



カンボジア井戸掘り事業に参加して

会長 沓名俊裕君

1.安城 RC の「絆」を充分感じる事が出来ました。

今回が安城 RC としての初めての国際奉仕事業であります。

参加者各位は各々、安城 RC 会員としての自覚と誇りを持って行動してくれました。各々の場面でお互いの「絆」を感じ取る事が出来ました。

2.これからも国際奉仕活動を・・・

カンボジアに行ってみると「井戸」を欲しがっている多くの人々があります。

その人々の要望に少しでも応えることが国際奉仕の活動になると思います。今後も検討し、実行できる事から実行していきたいと思ひます。

カンボジア井戸掘りツアー参加について

国際奉仕委員会委員長 市川護君

カンボジアの水は、どんな味かと、現地でも口に含んでみましたが、残念ですが飲めませんでした。2回程飲んでみようと思ひましたが、やはり飲み込む事が出来ませんでした。

口の中に、残る味が余り良くない、日本の地下水とは比較にならないです。

善意で作った井戸水を、我々が飲めないような井戸が良いのか考えさせられる一面がありました。次回井戸を提供する時は、参加した人が飲めるような井戸が出来ないのかも少し調べたいと思ひました。

安城ロータリーの皆さんと、国際奉仕の1ページが出来てとてもうれしく思ひました。

今後も、奉仕の活動を続けて行きたいと思ひます。

最後に、一緒に参加して頂いた。沓名会長 永谷幹事、

富岡さん、丸山さん、恒川さん、奥田さん、成田さん、石川さん、本当にお世話になりました。次回も、宜しくお願い致します。

カンボジア井戸掘り事業に参加して

幹事 永谷文人君

I 総括

1、平成 24 年 1 月 16 日(月)~19 日(木)までの 4 日間、カンボジア国シュムリアップ 地区村の「井戸掘り事業」に沓名俊裕会長以下 8 名ともに、従事した。

裕会長以下 8 名ともに、従事した。

2、総括として、「やってよかった」

というのが、第一印象である。そして、「井戸を望んでいる人が多くいる」という現実を目の前にした。

次年度以降どうするか?・・・大いに参考にしたい

3、約 4 日間寝食を共にした会員諸君と、より一層の友情が深められた事は、おおいに今回の参加者全員に感謝したい。

4、反省点

現地の RC クラブ の関係者に、接触を試みたが、その実現に至らなかった。

次回の訪問時には、事前の準備をしっかりしたい。

II、今回の井戸掘り事業について

1、安城 RC としては、最初の国際奉仕活動であり、画期的な行事であったと自負していいのではないか?

参加者が、総勢 9 名と当初予定より多く、よりこの行事の意義を深めた。

冒頭にも記したが、「井戸を求めている人は多くいる。」と言う事がわかった。

金額的にも、1機5万円でできるので予算を何とかやり繰りすれば、できない事ではない。

2、来事業年度の実行について

「のぞんでいる人がいて」「予算的にもなんとかなる」のであれば、来年度も実行していいのではないか?ただ、今回のように9名で訪問する事は、出来ないかもしれない。方法は、考慮の余地あり。

III、これからの自らの RC 活動のどのように生かしていくか?

1、ローターの「奉仕の精神」は、ありとあらゆる場所・地域で望まれている。

2、ただ、「施してあげる」という心だけではいけない。

3、でも、地球上にはまだまだ、「恵まれない人々」



安城ロータリークラブ 週報

ROTARY CLUB OF ANJO



は、一杯いる。

4、「何が恵まれないか?」「物質的にか?」「精神的にか?」

色々あるが、少なくともロータリアンとして、出来得る事はしてかねばならない。

5、ロー足りで培った「大きな友情」を、これからの人生の糧にして、仕事に・趣味に・その他RC活動に邁進していく。

カンボジア井戸掘り報告

富岡里美君

① 安城ロータリークラブ初の海外ボランティア活動に勇気を出して手を上げました。

その後、カンボジアがどんな所かをいろいろな方にお聞きしたり、自分で調べた結果、正直、後悔しておりました。

でも、百聞は一見にしかずとありますが、“聞くとは大違い”すべてが違っておりました。

カンボジアのシェムリアップ国際空港の建物はムードいっぱいリゾート地に来た気分でした。

生野菜は食べないと言われていましたが、クメール料理・カンボジア料理・中華料理等大変美味しくいただきました。胃腸はいたって元気で安心しました。

ホテルの部屋も最高でした。飲み水は、部屋に十分用意されていて、歯磨きも水道の水を使うことなく済みました。

夜道の女一人歩きも大丈夫でした(おばあちゃん?だからかもね)

2日目は4時半起床、サンライズ鑑賞から始まり、遺跡観光に出かけました。1, 100年前に作られた巨大な遺跡や数

多くの遺跡群を見て素晴らしさに感心するばかりでした。1日中歩き回り(約22,000歩)、夜はマッサージをし、ぐっすり眠りました。

3日目は、今回の目的でもある、井戸掘り現場に行きました。車で1時間位で現場に着き、村の方の嬉しそうな顔を見、

匿名会長が水を出した時は感動しました。水は透明で無臭でしたが、口に含んでみると、味は硬くトゲのあるような水で、

決して美味しいとは言えませんが、現地の人にとっては、とても大切な水なんだろうと考えさせられました。

1時間程滞在し、午後は博物館の探検、すべての工

程を終え夕方シェムリアップ国際空港に向かいました。

短い滞在ではありましたが、カンボジアを十二分に満喫することが出来ました。

② 井戸掘り事業が、1回限りで終わらないことを願います。現場に行く道中の井戸の所々に、寄贈者の看板が立っておりました。安城ロータリークラブの看板が1本でも多く立つといいなと思いながら見ておりました。

カンボジア井戸掘り国際奉仕事業報告

奥田法行君

① 私は、カンボジアへの渡航は今回はじめてでした。事前の知識といたしまして、世界での水道普及率は、エチオピア 24%、カンボジア 30%、アンゴラ 38%となっており世界で、2番目の低い普及率です。

(水道年鑑 2008 年による) 都市部では水道が普及していますが、少し郊外に行くと水道はもちろんありません。カンボジアの水道は水質が悪く、飲料水には適してないそうです。普通の家庭では、飲料用にはペットボトル入りの飲料水を使用しているようです。価格は20Lで1ドルくらいだそうです。郡部に行くと、水道はもちろんありません。井戸も十分普及していないのが現状です。今回の井戸掘りボランティアツアーでは、実際に現地での生活現状を確認でき大変参考になりました。カンボジア現地のガイドの前田くんの報告によりますと、今回掘った井戸水の中には有害成分がなかったとおききして、安城RCの井戸が、付近住民の生活の向上におおいに役立ってくれるものと確信いたしました。又、観光で訪れることが出来ましたアンコール遺跡郡はカンボジアの歴史を知ることが出来、感動を受けました。もちろん、楽しくシェムリアップ市内の観光ができましたことも付け加えさせていただきます。

② 今回の事業を、1回で終わらせずに継続していく方向で、安城RCとしては現地支援をしていくのも良いかと考えます。今回井戸ポンプ(新品)を持参しましたので、次回の井戸掘り支援事業では、写真工事での現状確認が出来るので、隔年でのカンボジア井戸掘りツアーを企画提案していただきたいものです。

③ これからのRC活動では、現地に行こうという気持ちを持ってRC活動に取り組む姿が求められると思います。

④ 今回参加させていただきましたことに感謝いたしますとともに、次回の井戸掘りツアーに今回の経験が生かせるようにしたいものです。

カンボジア井戸掘り支援事業（国際奉仕）

成田孝則君

【総合的な感想】

今回、カンボジアの井戸掘り支援事業に参加して思った事は、歴史的な文化をもったクメール王国の悲しい歴史を考えると胸が痛み、国民の一部の方だと思いますが30年前と変わらない生活を送っている方々を見ると、とても現代文化の生活とは思えませんでした。しかし、集落のみなさんのお顔を拝見すると、とても優しい目をしており、どんな人にも敵対心は持たない、心が大らかな人々に見えました。「これで十分幸せなんだよ」と言っているようでした。井戸掘りのセレモニー後に話した言葉はよくわかりませんが、「とても感謝しているよ」と言う言葉と受け取りました。訪問した際、最初は少人数しか集まらなかったのですが、話をしているうちに何人か集まり、我々を珍しそうに見て、杓名会長のメッセージを聞いている時には、笑顔に変わりました。自分はここに来て良かった、と思った瞬間でした。経済、生活習慣、気候、の違いはあれ、同じ人間で変わらないのは「優しい心」だと思います。私は今回で2回目のシュムリアップ訪問です。一度目は10年前でした。10年前と少し変わったなと思ったのは、ホテルが増え、信号機が1機でき、昼間に遊んでいる若者の数が減った事です。人々が就業できる会社、ホテル等が出来あがって来たのかな… 現地ガイドさんに一般社員の給料を聞くと月3万円位で、産業のほとんどが農業（米作り）なので、農家の人たちは月に均すと約1万5000円位だそうです。これから経済成長して行くカンボジアを、これからも見て行きたいと思っています。

【今回の井戸掘り事業について】

これから、この事業を継続できるか考えた時、今回のように現地に行く費用（旅費）を井戸掘り事業の費用に回せば、もっと早いペースで現地の方々へ井戸水の供給が出来ると考えました（資金だけの提供）しかし、直接現地の方々と話をすると、井戸以外でも多くの物が必要な事が直接伝わってきます。そして、クラブ会員皆さんからの貴重な寄付金がどのように使われているかを直接見て確認する事も必要と思いますので、できる限り継続して頂きたいと思います。

【これから自らのRC活動にどのように活かしてゆくのか】

井戸掘り事業を通じて国際交流ができればいいなと思います。カンボジアの若者は地元から出た事が無い。もちろん海外なんて行ける事もない。現地のロータリークラブと連携して、村の若者代表を日本へ招き、たとえば興味のある仕事（ポンプのメンテナンスとか）を肌で感じてもらえたらいいなと思います。

【その他】

井戸掘り支援事業を継続する場合の検討内容

- ①現地ロータリークラブとの交流
- ②井戸掘り場所の確定（周辺に増やすか）をNPO法人と確認
- ③現地住民の方々との交流会（昼食会）
- ④プレゼント（文房具・食料・彫刻の道具）

カンボジア井戸掘りツアーについて

恒川憲一君

今回訪れたシュムリアップは、アンコールワット遺跡観光の拠点。世界中から観光客がやってくる。国旗にまでアンコールワットの絵が描かれているように、遺跡は、この国の全てと云える。

さて、シュムリアップから、舗装された（ひどくでこぼこの）道をバスで揺られ50分ほどだろうか、井戸を寄贈した村「バンテアスレイヴィレッジ」に到着した。バナナの木に囲まれた独特の高床式の家。昔、虎などの野生動物に襲われまいとしていた名残であり、地熱の暑さを避けるためでもある。嬉しい部屋の中にあげもらった。殺風景な室内の真ん中にはSONYの白黒TVが置かれ、柱には、この国のアイドルだろうか、色褪せた雑誌のグラビア頁が切り取られ貼られている。貧困で厳しい暮らしにあっても、ほっと息つくであろう瞬間が目に見えぬ。

既に井戸は整備され、安城ロータリーの立て看板が立ってある。嬉しさと、ちょっと誇りのようなものを感じる。村の人は20人くらい、ほとんどが女性だ。出迎えてくれ、その後、ポンプのチェック、会長挨拶、記念撮影、村人全員との握手、お菓子配布をおこなった。このポンプ1つでどんなに暮らしが豊かになるのだろう。

ふいに、もっと井戸が欲しいとの声が上がリ、安城RCとしての今後の課題として持ち帰ることとなった。井戸掘り事業は継続することに意義があると思う。今回、人を助けることの喜びを目の当たりにし、今後のRC活動においても、この感激を忘れず、更に国際貢献に積極的に参加できればと思います。

最後に楽しい観光もでき、全てに貴重な体験ができ、ありがとうございました。